

東和町米川の五日町地区に約800年前から伝わりとされる「米川の水かぶり」。火伏せの奇祭として長い歴史と伝統を受け継ぐ祭りが2月9日に開催されました。(25、27ページ)

わら装束の男衆。大慈寺での祈禱を終えて「神様の使い」となり、家々の火伏せに向かいます

受け継がれる 火伏せの奇祭

震災後の対応を探る

石越中学校では、「総合的な学習の時間」の充実を図るため体験活動を取り入れています。今回は、東日本大震災時の避難所の様子や物資などの状況を学ぶため、2年生が石越総合支所を訪れました。実際に避難所の運営に携わった職員から避難所での生活状況などが説明され、物資や支援金がどのようにして被災者まで届くのかなど、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。

石越中学校は震災で校舎が被災し、現在は石越総合運動公園に建築された仮設校舎で学んでおり、新校舎の建設が待たれるところです。

石越

石越中2年生が総合学習



▲市職員の説明を熱心に聞く生徒たち

南方

第24回新春郷土かるた大会

かるた遊びで郷土を学ぶ

南方町の新春の恒例行事となっている郷土かるた大会が、南方農村環境改善センターを会場に開催されました。

今年で24回目を迎える大会には、町内の幼稚園児、小学生92人が参加し、行政区ごとに行われる団体の部と個人の部で競技が行われました。郷土かるたは、南方町の歴史や史跡名勝、特産物などがイラストで描かれており、かるた遊びを通して楽しく地域を学ぶことができます。

会場に漂う張り詰めた緊張感の中、札が詠み上げられると参加者は「はいっ」と元気な声とともに札を取り、各部門とも白熱した競技が繰り広げられました。



▲かるた遊びを通じて南方町を学ぶ

津山

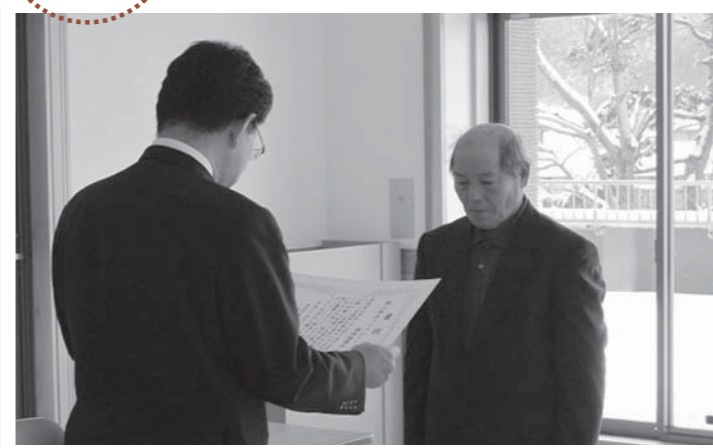
交通死亡事故ゼロ 1,500日

津山町へ警察から感謝状

津山町横山地区が交通死亡事故ゼロ1500日を達成、これをたたえて1月16日、津山総合支所において市交通安全対策協議会と登米警察署長から横山地区コミュニティ推進協議会(会長・佐藤秀一)へ褒状が贈られました。

また、この達成に併せ、登米警察署長から津山町(津山総合支所長)へ宮城県警察本部交通部長からの感謝状が伝達されました。

褒状を授与された佐藤会長は「地域の皆さんと関係団体の協力のおかげ、今後とも記録を更新していけるよう努めたい」と決意を述べました。



▲褒状を受けとる横山地区コミュニティ推進協議会の佐藤会長